

第一回アジア・太平洋地区 天文教育国際会議

前に月報でお知らせしてあった上記国際会議が10月26日—29日に北京で開催された。9ヶ国から40人余りの出席者で、盛会であった。国際天文学連合 (IAU) のアジア・太平洋地区の中で、天文教育委員会が設立されて5年になる。IAUの他の会議のほかに小さな集まりを持つだけで、委員長周辺で発行している Bulletin が主な活動であった。1991年アルゼンチン、ブエノス・アイレスでのIAU総会の折りに委員長が中国天文学会会長 Li Qui-Bin 氏に開催要請をした所、受け入れられた。中国側の Li Zwangai 氏と共同議長となって準備がなされた。第一報が流されてから一年足らずの日数しかなく、又費用の分担の問題もあって、心配させられた。しかし、最終的には人数の点においても会議中に行われた議論の点においても、成功させることができた。

会議は中国天文学会会長と中国科学院代表、それに委員長の挨拶で始まった。中国側からはこれを機会に、中国国内での天文教育活動を活発にしたいという意が示された。これには中国側の出席者は大喜びであった。私は、ヨーロッパやアメリカと対等な議論のできるアジア・太平洋地区の結びつきの大切さを強調した。

30余りの発表と10のポスター発表があった。飾りとして宮内さんの書も4点展示され、中国からの参加者からはとても喜ばれていた。発表は私の“花と星”のように天文教育のあり方の一般的な概念と、各大学、プラネタリウムなどでの活動報告という風に、夏の天文教育研究会の発表と似た割合であった。中国の人の発表はたどたどしい英語でのものもあったが、自分達の現状を理解してもらおうと一生懸命なのがよく判った。日本の天文教育研究会の発表もぜひこのような所でもやってもらいたいと思いつつ聞いていた。



出席者のほとんどが、第二回会議を開くようにとの希望を述べられ香港などが候補地としてあげられた。数年以内に実現したいものである。なお、この会議の論文は全て Bulletin of Teaching of Astronomy in Asian-Pacific Region, No. 7 and No. 8 に掲載されることになっている。できあがりしだい案内を月報に載せるが入用の方は、その時の指示に従って申し込んでほしい。

最後にこの国際会議開催にあたって、(株)ダイニックより御援助をいただいた事を記し、感射の意をあらわしたい。

磯部 瑠三

(アジア・太平洋地区天文教育委員会委員長)

☆

☆

☆

☆